

しじゅんせつだい しじゅつ
四旬節第3主日

きょうのふくいん (ヨハネ2. 13~25)

ユダヤじんのすぎこしさいがちかついたので、イエスはエルサレムへのぼっていかれた。そしてしんでんのけいだいでうしやひつじやはとをうっているものたちと、すわってりょうがえをしているものたちをごらんになった。イエスはなわでむちをつくり、ひつじやうしをすべてけいだいからおいだし、りょうがえにんのかねをまきちらし、そのだいをたおし、はとをうるものたちにいわれた「このようなものはここからはこびだせ。わたしのちちのいえをしょうばいのいえとしてはならない。」でしちは、「あなたのいえをおもうねついがわたしをくいつくす」とかいてあるのをおもいだした。ユダヤじんたちはイエスに「あなたは、こんなことをするからの、どんなしるしをわたしたちにみせるつもりか」といった。イエスはこたえていわれた。「このしんでんをこわしてみよ、3日でたてなおしてみせる」それでユダヤじんたちは「このしんでんはたてるのに46ねんもかかったのに、あなたは3日でたてなおすのか」といった。イエスのいわれるしんでんとは、ごじぶんのからだのことだったのである。イエスがししゃのなかからふっかつされたとき、でしちはイエスがこういわれたのをおもいだし、せいしょとイエスのかたられたことぼとをしんじた。イエスはすぎこしさいのあいだエルサレムにおられたが、そのなさったしるしをみて、おおくのひとがイエスのなをしんじた。しかし、イエスごじしんはかれらをしんようされなかったそれは、すべてのひとのことをしておられ、にんげんについてだれからもあかししてもらおうひつようがなかったからである。イエスは、なにがにんげんのころのなかにあるかをよくしておられたからである。

イエスさまのじだいに、いちねんにいちどすぎこしのまつりがあつて、くにじゅうのひとたちはかみさまをれいはいするためと、ささげものをささげるためにエルサレムのしんでんにあつまってきました。そのささげものがわざわざじぶんのすんでいるところからもってこなくても、しんでんのなかにわで、いろんなどうぶつをうっていたので、それをもってささげものにしていました。しかしかうために、ふだんつかっていたおかねはつかえないので、りょうがえのしょうばいをするひとがいた。(そのとうじ、ユダヤのくにをおさめていたのはローマのくにでしたので、ふだんはローマのおかねをつかっていたから。

すぎこしさいはしょうばいにんにとっては、おかねもうけができるときですので、かみさまのことよりも、おかねのことであたまがいっぱいでしし、もうけるためにむちゅうでした。

そのとき、イエスさまはしんでんにこられて、びっくりしてしまいました。「これは、どうなっているのでしょうか」しんでんはかみさまにいのるばしよなのに、しょうばいのばしよになっていたので、イエスさまはいかってしまいました。

イエスさまはこの四旬節^{しじゅんせつ}のあいだに、わたしたちによびかけてくださっています。イエスさまは、わたしたちのくるしみやかなしみもすべてせおってくださったことを、まいにちのせいかつのなかでおもいだしていますか。どんなことよりもきょうかいにいくのは一ばんですか。イエスさまがのぞんでいることよりも、じぶんのつうごうでうごいていないでしょうか。イエスさまはじぶんのころのなかでなんばんめになっていますか。かみさまのことをわすれていたら、どうやってかみさまのやくそくにこたえられますか。だいじょうぶでしょうか。

リーダーはみなさまのことをおもいだして、にちようび、どうすごしているのでしょうか、いのりをわすれてないでしょうか、としんばいしています。

おうちのかたに、きょうかいにつれていってもらいましょう、かみさま(イエスさま)にであうばしよですので、イエスさまにあいにきてね。